

徳島市都市計画マスタープラン策定 市民会議（第4回）
議事録（要約）

- と き** 令和4年3月25日（金） 午前10時～12時
- ところ** 徳島市役所13階 第一研修室
- 議 事** (1)市民ワークショップ（地域別意見交換会）第2回の開催結果について
(2)令和3年度の検討のまとめについて
(3)令和4年度の策定スケジュールについて
- 出席者** ・委員16人（奥嶋会長、佐々木副会長、東委員、井上委員（代理：村上氏）、岡山委員、小川委員、柏原委員、黒田委員、高源委員、島田委員、鈴江委員、瀬戸委員、滝本委員、辻岡委員、板東委員、松崎委員）
・事務局11人（企画政策部都市計画課）
・傍聴なし
- 備 考** オンラインとの併用による開催

1 市民ワークショップ（地域別意見交換会）第2回の開催結果について

委員

昭和・津田地域に関して、「3その他、意見」に記載のある勝浦川上流にある堤防の話と南昭和町七丁目付近の護岸については、関係性がないと思う。

会長

参加者からのご意見をいただいたとおりに記載されているので、参加者が誤解されているのかもしれない。

委員

津田地区の「地域のまちづくりの方向性」に関して、「生活利便性の充実と自然環境を活かした快適な定住環境の維持」の項目に、「木材団地での親水公園整備」を加えてほしい。

また「災害に強いまちづくり」に関して、「防災公園の整備や避難所への動線の整備」の冒頭に、「津田山に」を加えてほしい。

「キャッチフレーズ等について」の将来像等に対する意見で、「津田地域の変えた方がよい」の部分に「『産業活動が共存する』は削除したほうがよい」とあるが、これは一意見ということ資料に載せる必要があるという認識でよいか。

事務局

ご認識のとおり、参加者からのご意見として記載している。

2 令和3年度の検討のまとめについて

委員

主要課題「1 求心力の高い都市づくりへの対応」の「中心市街地を、市民や来訪者にとって『居心地が良く歩きたくなる』まちなかに」について、私も同じ認識を持っている。私自身は徳島市を住みよいまちだと思っているが、人が寄ってくるからこそ、より住みよいまちとしての印象付けができると思う。そのため、ぜひ、中心市街地がにぎわって、居心地がいい、歩きたくなるようなまちづくりを目指して、この計画を作してほしい。

会長

承知した。「都市づくりの目標」にも、同様な文章があった方がいいと思うが、どうか。

委員

あったほうが分かりやすいと思う。

委員

都市づくりの目標の「2 地域特性を活かした持続可能な都市」に、「市街化調整区域における既存集落のコミュニティの維持」とあるが、既存集落を維持していくためにも、市街化調整区域における無秩序な開発抑制は重要であると考えている。

この記載だけ見ると、コミュニティ維持のために、市街化調整区域における開発を許容するというようにも読み取れるので、既存集落がどこかを明確にして、その既存集落のコミュニティは維持していくが、それ以外の新たな開発は可能な限り、抑制していくという方針が伝わるような文章にしてほしい。

この部分は全体として立地適正化計画の居住促進などとも統一した考え方としていくのが重要であると考えている。

委員

都市づくりの目標の「2 地域特性を活かした持続可能な都市」に、「先端技術の活用やデジタル・トランスフォーメーション（以下、DX という。）を取り入れた地域課題の解決」とあるが、「地域特性を活かした」という部分と「DX」という部分はどのようにつながるのかが分かりにくいと感じる。例えば、徳島市の通信ネットワークが他の地域に比べて高速なのか、仮に高速であればそれを活かすとか、徳島市に住んでいても、都市部の仕事ができるというリモートワークなど、なぜDXが徳島市の便益につながるのかという部分を追記できるとよい。

会長

特に、徳島県はDXに力を入れており、県全体でネットワークの高速化が進んでいると聞いている。ただ、徳島市が他の地域と比べてどの程度なのかは確認が必要である。

委員

都市づくりの目標の「1 選ばれる都市」に、「本市の魅力を積極的に発信し、質の高い都市環境・都市景観を形成」とある。市に在住しているので、外部にどのように情報発信しているのか知らないのだが、徳島市の魅力に関するPRはまだ不足していると感じている。

そのため、特にこの点に注力していかないと観光客も増えないと思う。駅近くの歩いていけるところで、登山ができる（眉山）、自動改札機がない唯一の県など、PRしてみてもどうか。

また、徳島駅前の商業施設跡の有効活用も、買い物施設だけにとらわれず、学校の分校など、学生を呼べる施設にするのもよいと思う。

会長

魅力の発信あるいはPRが不足しているというご意見と理解した。これについて、都市計画マスタープランの中でも追記したいということによいか。

委員

まず、どのように発信をしているのか知りたい。

事務局

市内の複数の部局で観光客や移住者に向けたPRの取組みを進めている。より効果的な方法を考えたい。

徳島駅前の商業施設跡は、商業中心であるが、県青少年センターの移転など、多世代の人に活用してもらえるよう進めていく。

会長

「魅力」の発信は非常に重要である。「選ばれる魅力ある都市」など、「魅力」というキーワードを計画の中に取り入れられないか検討いただきたい。

委員

東京では、「徳島」は知られているが、北海道や東北では「徳島」は知られていないと感じる。四国の中でも、香川や高知と比べて知名度が低い。地理的に遠くの人に向けても届くようなPRが重要である。

他県では、中心駅での観光PRが盛んである。他県でのPRに力を入れてほしい。

会長

「観光」に関しては、現在、コロナ禍でなかなか進んでいないが、今後、一つの重要な産業になっていくと思う。そのため、都市計画マスタープラン内の細目の中に、キーワードとして取り入れられないか、検討いただきたい。

委員

都市づくりの目標の「3 災害に強く誰もが安全・安心に暮らせる都市」についての災害だけに限らず、普段から安全・安心に暮らせる都市ということも重要である。普段の安全・安心である日常の防犯やスクールゾーンなどの交通安全等の視点もどこか目標に取り入れてほしい。

会長

日常の安全・安心を確保していくという点を盛り込めないか、検討いただきたい。

委員

都市づくりの目標の1と2に関連する意見として、住みたくなるまちの要素の一つとして駅近くでいろいろなことができるという点が挙げられる。徳島駅周辺の開発はまだ余地があると思われるため、駅近くに子どもや市民が憩える場所などを整備するということも考えられる。

2つ目は、先ほどの委員の意見とも重なるが、観光に強いまちになってほしいという点である。特に、徳島市は魅力的なまちかどがたくさんあると思うので、そういった点を活用できるといい。駅から近いところ、歩いていけるところに魅力があることをPRするといい。

仙台市や静岡市のまちのマップを見ると、交通機関に乗らなくても、歩きながら十分に楽しめる。徒歩圏内の観光用マップなどができると、まちなかを歩くことも楽しめると思う。

徳島県は、「ニューノーマル」を掲げて思い切った施策をしている。徳島市も、今までの歴史を残しながらも、若い人の意見を取り入れて、思い切った施策を進めていってほしい。

3 令和4年度の策定スケジュールについて

※委員からの意見なし

以上